

県内総合

# 建設情報*Iwate*

## 長内橋側道橋など対象に

### 県北振興局管内の橋梁補修・補強

県北広域振興局土木部は、18年度の橋梁補修・補強事業で、主要地方道岩泉平井賀普代線の大沢橋(橋長約52㍍)や、主要地方道野田山形線の野田橋(約32㍍)、国道281号長内橋の側道橋(約110㍍)などを中心に、工事を進める。夏～秋ごろの発注を予定している。

大沢橋は普代村内に架かる橋梁で、橋長約52㍍、幅員8.6(9.4)㍍のコンクリート橋。補修工事では、伸縮装置や高欄の取り替えのほか、橋面舗装、支承の取り替えを実施する。補強工事では橋脚の巻き立てや、落橋防止装置の取り替えを予定している。概算事業費は約7000万円。県の発注見通しを見ると、補強・補修工事の発注時

期は8月となっている。

野田橋は、野田村野田地内に架かる。二級河川宇部川を跨ぐコンクリート橋で、橋長は約32㍍、幅員は10.5(11.3)㍍。主な内容として、P C M(ポリマーセメントモルタル)巻き立て補強や沓座拡幅、地覆補修を計画。想定事業費は6000万円程度となっている。発注予定時期は9月。

長内橋は、久慈市の久慈川水



久慈市内に架かる長内橋

### ニュースのお知らせ

〒020 0015 盛岡市本町通3 9 33

本社編集部へ

TEL (019) 623-8201

FAX (019) 623-8204

系長内川に架かり、久慈幼稚園の北東側に位置する。補修対象となる同橋の側道橋は、橋長約110㍍、幅員2㍍のプレートガーダー橋。事業内容は橋桁の塗装や高欄の補修などを予定している。発注予定時期は9月となっている。

このほか、過年度に工事を公告したものとの不調となった橋梁補修・補強などについても、18年度に工事を発注していく考えだ。

## 千厩川で橋梁上部など

### 18年度の事業概要② 本宿の沢は堰堤工を

千厩土木  
セクター1

〈県単急傾斜地崩壊対策事業〉  
八幡前(一関市大東町)については、18年度での事業完了が目標となる。全体計画は、現場吹付法枠工を80㍍、面積で2000平方㍍程度を進めるもので、13年度から事業着手している。

今年度は、延長70㍍、面積にして約600平方㍍での現場吹付法枠工を実施する。前年度には、延長10㍍、204平方㍍の範囲で現場吹付法枠工を実施した。

◇ ◇  
館山(一関市千厩町)は、14年度から事業着手しており、全体で60㍍程度の延長で施工を実施す

る。地山補強土工を実施するもので、ロックボルトとワイヤーで補強を図った上で、緑化する工法を採用する。

千厩体育館や千厩公民館付近が個所。17年度は埋蔵文化財調査を実施。18年度から工事を開始する見通しで、400平方㍍の規模を計画している。

〈広域河川改修事業〉  
一級河川千厩川筋宮敷(一関市千厩町)は、同川の中流部に当たり、一関市道に架かる白山橋から旧千厩病院跡地付近の構井田地区までの町中心部を事業範囲とする。2130㍍区間での河川改修とな

っている。事業には1968年度に着手しており、現段階で2022年度ごろの完了を見込む。

千厩川の中流部の改修自体は、国道284号に架かる千厩橋から構井田地区までの区間を計画。このうち、千厩橋から白山

橋までの町浦工区については、10年度で概成した。

改修により架け替える宮敷橋の下部工が進められており、左岸側の橋台工は完了している。17年度から右岸側の橋台工に入ったほか、付替道路工についても行っている。

下部工が完了した後、18年度は上部工に入る見通し。宮敷橋から下流の右岸、200㍍での護岸工や付替市道の施工にも18年度は取り掛かりたいとしている。

宮敷橋の新橋は、現橋より上流側に架け替えることで計画。新橋は、橋長23.36㍍、幅員4.0(5.0)㍍。P C単純プレテンションホロー桁橋の形式としている。

〈治水施設整備事業〉  
一級河川砂鉄川筋松川(一関市東山町)では、内水対策として支川の中通川に排水ポンプ2基の設置を計画している。排水ポンプは毎秒0.5㍑の処理能力としている。ゲートポンプとはほぼ同位置に設置する。今年度は、施工を進め事業を完了させたいとしている。

◇ ◇  
一級河川砂鉄川、曾慶川筋流失(一関市大東町)は、16年度から河川改修に着手している。事業区間は、砂鉄川と曾慶川の合流地点の辺り。計画延長1600㍍で、砂鉄川が1100㍍、曾慶川が500㍍の内訳。築堤10万5400立方㍍、掘削68万7100立方㍍、護岸5万9800平方㍍を進めるもので、24年度までで

事業展開を図る見通しだ。

17年度は用地補償を推進。18年度も用地補償を引き続き進める考えだ。着工時期は、用地関係の進捗状況を見て判断していくこととしている。

〈総合流域防災事業(砂防)〉  
二級河川津谷川水系の本宿の沢(一関市室根町)は、1基目の砂防堰堤が完成。18年度は、2基目の砂防堰堤の整備や堰堤整備に伴う付替道路工を進めるとともに、溪流保全工についても発注したいとしている。



完成した本宿の沢の1基目の堰堤

全体計画は、砂防堰堤2基、溪流保全工790㍍、付替道路820㍍の整備で、10年度から事業着手。堰堤は、本宿の沢、同2の分け方をしている。

整備する堰堤は、本宿の沢が堤長42.5㍍、高さ8.5㍍、堤体堰1215立方㍍。同2が堤長38㍍、高さ8㍍、堤体堰816立方㍍で、ともに重力式コンクリートの透過型の形

## アティック事務所が 勤労ホーム耐震診断

＝岩手町＝

岩手町は、町勤労青少年ホームの耐震診断を計画。アティック建築事務所の担当で、「岩手町勤労青少年ホーム耐震(二次)診断業務」が進められている。

同施設は、同町大字沼宮内第7地割地内に位置する。施設規模は、鉄筋コンクリート造2階建てで、

式で計画している。

溪流保全工については、本宿の沢が延長323㍍、高さ1.4㍍、同2が延長460㍍、高さ1.2㍍。付替道路は、堰堤の整備が現道にかかることから、堰堤を乗り越す形で整備する。

工事の発注自体は、今年度で終えたい考え。事業期間は19年度までを見込んでいる。(おわり)

延べ床面積1124.65平方㍍。供用開始から、30年以上が経過している。

同業務の期限は、12月28日まで。主な業務内容は、部材寸法調査、接合部調査、柱脚調査、基礎調査、部材・接合部の発錆状況調査のほか、報告事項として耐震性の検討結果や補強計画の概要など。

町では、5月30日に同業務を入札した結果、アティック建築事務所が254万円で落札した。予定価格は、399万円だった。

# いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える



## 世界に発信する地域防災

岩手大学理工学部システム創成工学科教授・地域防災研究センター副センター長 越谷 信

日本各地では、毎年のようにさまざまな自然災害が発生し、近年でも多くの被害が報告されている。2011年東日本大震災を引き起こした東北地方太平洋沖地震以降、2011年には震度6弱以上をもたらした地震が長野県、福島県、宮城県などで6回、この後2016年までに5回発生している。この中には、震度7を2回観測した2016年熊本地震も含まれる。火山の噴火も日本の各地で発生しているが、最近では、戦後最大の犠牲者を出した2014年の御嶽山の噴火や2018年の草津白根山の噴火がある。豪雨や斜面災害の発生箇所や件数は多数に上るが、2014年8月の広島土砂災害や2017年7月の九州北部豪雨では多数の犠牲者が生じた。岩手県内でも、2013年8月の秋田・岩手豪雨では花巻市・西和賀町などで被害が発生し、2016年8月の台風10号では岩泉町を中心に甚大な被害が生じた。こうしたなか、国や地方自治体の防災への取り組みが強化される一方で、防災に関わる社会の関心はますます高まっているのではないかなと思う。

このたび「いわて防災学教室」を再連載することになった。この機会に本紙上を借りて、自然災害に対してより強靱で、より安全な社会の構築に向けて、防災に関わるさまざまな情報を発信させていただく。今回は、前回の連載でお伝えできなかったことや、その後の学問の発展や新しい災害事例からの教訓を含めて紹介していく予定にしている。

本連載の執筆陣は岩手大学地域防災研究センターに所属している。同センターでは、その名の示すとおり「地域住民の目線に立った防災」を目指している。本連載では、地域に入り込んで、あるいは地域に根ざした防災の取り組みも紹介することになろう。

少々手前味噌になってしまい、恐縮ではあるが、

本年7月17日から4日間、盛岡にあるいわて県民情報交流センター・アイーナを主会場として、国際防災・機器管理研究岩手会議が開催される。主催は、岩手大学地域防災研究センター、清華大学公共管理学院危機管理研究センター(中国)、ハーバード大学ケネディスクール・クライシス・リーダーシップ・プログラム(米国)で、共催は、復興庁、岩手県である。本会議は、国際防災研究ネットワーク(International Network of Disaster Studies)の下、日本、米国、中国等世界の防災、危機管理に関する専門家が集まり、大規模災害の様相、緊急対応、地域力など地域復興などに関する知見や成果を発表、共有するとともに、広く国内外にむけて東日本大震災を経験した岩手から発信していくことを趣旨としている。

プログラムには、東日本大震災に関わる活動やその成果を発表する機会を多く取り入れ、岩手大学の取り組みを紹介する「東日本大震災による教訓」、岩手・東北・福島大学における防災・復興活動に関わる「大規模災害における大学の役割」、岩手県知事や釜石市長などの講演者を迎えての「いわて復興未来塾」などの講演討論会を企画している。会議の最後には被災地研修を設け、岩手県沿岸の東日本大震災被災地域のうち、陸前高田、釜石、宮古の3地域に分かれ、視察研修を行う予定である。詳しい情報は、ホームページ(<https://inds-iwate.org>)をご覧ください。前回の「いわて復興未来塾」には一般の方が自由に参加でき、また、登録をしてもらえば、さまざまな講演討論会に参加できる。岩手大学地域防災研究センターでは、この機会を利用し、今までの成果を数多く発表するので、関心を寄せていただければ、幸いである。

実証 スマートコンストラクション。

3Dデータで、建設機械と現場と人をつなぐ。経験の浅いオペレータが、整地に挑んだ。現場の仕事は、どこまで変わるのか。

これまでない現場も、これからは現場とともに、**SMART CONSTRUCTION**

「スマートコンストラクション」を説明します。  
<http://smartconstruction.komatsu.co.jp/>

スマートコンストラクション 建築

KOMATSU D37PXi-23

KOMATSU PC128USi-10

本社の試験場である、ある実験が行われた。昨年1年、3年、5年の若いオペレータに、水をイメージした土の層の掘削や整地に挑んでもらう。彼らは、時には難しい作業。サポートするのは、二台のICIT建設機械。そして、「スマートコンストラクション」というICITソリューションだ。

ICITアプリーザが土を掘り出した。指示データがすでにインプットされている。若いオペレータの仕事は、黄色い車体を前後に動かすだけだ。そう、機械がほぼ自動で作業を進めてくれる。油圧シリンダは、指先や手の甲を器用に使い、法面の斜めのラインにしかでない。本来なら、とても経験の浅い者にはできない精度と速度ではない。

結果は、この通りである。建設現場の常態が、いま大きく変わり始めている。

＊建設現場の様子を、ゼミナールからご覧いただけます。

**KOMATSU**

**コマツ岩手株式会社**

盛岡・花北・県南・水沢・釜石・大船渡・遠野・久慈・二戸・宮古

本社/〒020-0891 紫波郡矢巾町流通センター南2-9-5  
TEL 019-638-1100(代)  
<http://www.e-komatsu.com/iwate/>